

ものづくりの原点がある③

最もものづくりらしいものづくり。

山崎 暁 (36歳)

❓ 入社のも機は？

それまで11年間働めた会社から転職、入社しました。製造業でものづくりがしてみたかった。職人のように仕事を通じて「技」を身につけていきたいという思いがあったからです。だから製造業でも、歯車みたいに毎日同じことをするボタンを押すだけの様な仕事ではなく、自分で考え、技術を磨け、上達していけるような仕事。鑄造にはそれがあろうかと思っ

❓ ありましたか？

入社してほぼ1年ですが、あったと思います。なによりも鑄造は、面白い。

鉄を溶かして固めてモノを作るわけですから、ものづくりの中でも最もものづくりらしいものづくり。

作っているものが大きい、ということも魅力です。



❓ 今の仕事は？

原料となる「湯」づくりを担当しています。「湯」というのは原料となる鉄を炉で溶かしたもので、千数百度の高温の湯をつくり、鑄造工程に供給するまでが私の担当です。

湯の主原料は、鉄スクラップ。ここに炭素含有量が高い銑鉄を加えて溶かします。さらに炭素やシリコンなどで成分調整し「湯」を製造します。

湯の成分は、製品によってさまざまに異なります。例えば工作機械のフレームだと、機械の振動を吸収するために柔らかい素形材にしないといけない。だから炭素量を数パーセント低めにする。高い硬度が求められる製品では、逆に炭素を増やす。

組成分析機で確認しながら成分調整を行います。

また湯の温度も大事です。温度によって固まる速度が違うので、製品の形状や成分によって温度を変えて鑄造工程に供給していく必要がある。

「どんな成分の湯を、何℃で出湯してくれ」という指示に従って確実に供給するのが私の使命。湯の品質によって鑄造品質が決まるわけですから、とても重要な仕事。責任が大きな分、やりがいのある仕事だと思っています。

❓ これからどんな仕事をしていきたい？

まずは、鑄造のすべての工程を経験したい。営業にも出てみたいと思っていますが、そのためには鑄造のことを分かっ



る必要がある。現場からやっていくのが原点だと思っています。

❓ 職場の雰囲気は？

社員ひとり一人が職人の会社だと思います。どの工程を見ても技術と知識が必要だし、それぞれ奥深い世界がある。自分のやるべきことに習熟した人たちが、他の工程と連動しながら動いて、みんなでひとつの製品を作り上げていく。

職人だから、ミスは許されない。自分のミスで、全体がダメになる。その緊張感が、とても好きです。

Q：どんな人が向いている？

鉄を使う。熱をあやつる。そして大きなものを作る。まさに「ものづくり」の会社。

だから、ものづくりが好きの人。そして体力にそこそこ自信のある人(笑)

鑄造の世界は、深いです。そういう深さに魅力を感じられる人が向いているのではないかと思います。